

辻 泰弘 国会ニュース

つじ やす ひろ Kokkai News 2011年6月23日 NO.104

「年金制度改革提言」を寄稿 !!

前号にて既報の「年金制度改革に関する提言」が「週刊社会保障」に掲載されました。新たに加筆した冒頭部分の概要は以下の通り。

今日、日本が直面する政策課題の中で最優先のものが東日本大震災に関わるものであることは論をまたない。我々は、物的、精神的両面にわたる復旧・復興を早急に果たすべく、国の総力をあげて取り組まなければならない。同時に、国民生活に大きく関わり、国として解決をはかっていかなければならない最重要の政策課題は、年金、医療、介護、福祉、雇用、子育て支援など、社会保障に関わる政策領域である。折しも、6月2日に内閣府が発表した「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」によれば、「たとえ、今後、税や保険料の負担を増やすことになっても、社会保障制度の現在の水準は維持・向上させるべき」とする人が68%（5年前の調査は56%）に上っている。



これは、競争・効率・自己責任を求める新自由主義の世界的潮流に乗じた形で、世界に例を見ないスピードで進行する少子高齢化の進展と、予算の半分を国債で賄うという厳しい財政の窮状とを理由として、一方的に決めた歳出削減方針の下に進められてきた社会保障抑制策が国民にもたらした将来に対する不安感を如実に示したものと言えよう。また、核家族化、都市化といった社会の構造的な変化がもたらした家族・地域・職場のきずなの希薄化・崩壊の中で、国民生活における経済的・精神的安定の確保が困難となった現代の姿を投影したものと言うべきかも知れない。（...中略...）

私は、民主党の「社会保障と税の抜本改革調査会」の副会長として審議に参画し、年金制度改革については、5月11日の総会において、私案を提出し、民主党案への反映を求めた。最終案においては、私の提案に沿った政策方針、政策体系になったとは言い難いが、これまでの年金改革に関する党内論議が十分でなかった民主党の歴史の中では、短期間とはいえ議論の場がもたれたこと自体、画期的なことと評価したい。（...中略...）

なお、33年前に政治の世界に身を投じ、以来、政治を通じて国家・国民のために人生の全てを尽くしたいと念じつつ、3回の落選を経て、15年の歳月をかけて国政に辿り着き、10年が経過した私の政治と社会保障に関する基本理念（熱い思い）は以下の通りである。本稿で示す年金制度改革への提言もそれらの理念・思いに源を発することをご理解頂ければ幸いである。

「政治とは人間の幸せの追求である。」「政治の根底には熱い血、温かい血が流れていなければならない。」「資源なき日本の最大の資源は人である。」「豊かな福祉社会の実現は、公正な国民負担の上に成り立つ。」「厚生を生とは、生活の生、人生の生、生命の生、衛生の生、生身の人間の生である。それらの生を厚くすることが政治の使命である。」（後略）

上記の「週刊社会保障」6月20日・27日号掲載の寄稿文全文、及び本号は下記のHPに掲載。

兵庫県事務所 TEL 078-230-8824 東京事務所 TEL 03-6550-0404 <http://yasuhiro-tsuji.jp/>